

令和6年度 子ども若者を支援するゲートキーパー研修アンケート結果

対象者：葉山中学校教員 27名

内訳：20歳代 7人、30歳代 4人、40歳代 3人、50歳代 6人、
60歳代 3人、無回答 1人

【質問①】「子どもの自傷・自殺行為」の現状について

- | | |
|------------------|-----|
| 1. 新しい知識が得られた。 | 16人 |
| 2. 大体知っている内容だった。 | 7人 |
| 3. 良くわからなかった。 | 0人 |
| 無回答 | 1人 |

【質問②】「SOSに気づく」について

- | | |
|------------------|-----|
| 1. 新しい知識が得られた。 | 13人 |
| 2. 大体知っている内容だった。 | 11人 |
| 3. 良くわからなかった。 | |

【質問③】「対応の基本」について

- | | |
|-------------------|-----|
| 1. 新しい知識が得られた | 16人 |
| 2. だいたい知っている内容だった | 8人 |
| 3. 良く分からなかった | 0人 |

【質問④】「支援者のメンタルヘルス」について

- | | |
|-------------------|-----|
| 1. 新しい知識が得られた | 13人 |
| 2. だいたい知っている内容だった | 11人 |
| 3. 良く分からなかった | |

【質問⑤】 本日の内容を校内で伝達できますか

- | | |
|----------------|-----|
| 1. できる | 4人 |
| 2. どちらかというときそう | 18人 |
| 3. 少し自信がない | 2人 |
| 4. できそうにない | |

【本日の研修の感想】

○連携

- ・自傷・自殺行為の背景には、様々な原因が引き起こしている。そのため、多方面からの支援が必要であると知りました。
- ・最後にでてきた「長続きする連携」という言葉が印書に残った。
- ・一人でかかえこまないことが大原則ということを再認識できた。

○向き合い方

- ・子どもたち一人ひとりと向き合い、「心配している：と声をかけていきたいと考えました。
- ・子どもの発言、SOS にいかに冷静に対応できるかが、重要であることを認識しました。
- ・傾聴を心がけているつもりではありますが、しっかり聞けていないというか子どもの思いを本当に聴くことができていたのかと思い出すことがあります。
- ・いつもその言葉の奥にある背景を知ろうとすることが大切だと改めて思った。
- ・自分の受けもった子どもを思いうかべてきいていた。あやまった対応が多かったと感じる。これを機会に正しく対応していきたい。

○対応する人

子どもたちの様子をしっかり見て、穏やかな気持ちで接するためには、自分自身の気持ち・体力に「ゆとり」が必要だとあらためて感じた。

- ・重たい内容でしたが受け止めなければならないと思いました。
- ・既知の内容でも細かな部分や再認識できてよかった。栗東市の自殺率が働き世代ということに驚いた。
- ・知っていても行動できるとは思わないので、繰り返すことで学んでいきたい。
- ・「精神科医療機関につないだほうがよい目安」については、今後参考にさせていただこうと思います。
- ・具体的な対応例があったのでわかりやすかったです。

【今後の研修で知りたいこと】

- ・保護者との関わり方 2
- ・「死ぬことで楽になると思ってるの？」と聞くことは子どもをあおっている声掛けにならないか心配です。
- ・「LGBTQ+」の告白を受けた時の対応。今回と重なるところもあると思います。
- ・自傷行為に気づく前に、メンタルで負荷がかかっている生徒をどのようにみわけるか。
- ・それぞれの関係機関が何をしているのか知りたいです。
- ・具体的な声かけの仕方（ケースによって）
- ・どれだけ経っても話そうとしない子の対応など。
- ・医療の領域になるが、解離性障害等の病気についても学んでみたい。

令和7年度 ゲートキーパー研修について

ゲートキーパー研修とは

- 自殺や自殺関連事象に関する正しい知識を普及する
- 自殺の危険を示すサインに気づき、見守ったりする人（ゲートキーパー）を養成する

令和7年7月に小中学校教員対象にゲートキーパー研修を実施する予定です。